

子どもの発達(2) 思春期から青年前期の発達～発達症(障害)の理解の基本になる基礎的な発達心理学の知識～

□児童期の心理的発達のテーマ

- ・自分の発見・人間関係の広がり・社会的スキルの獲得・学びによる科学的、論理的思考、因果関係の理解、科学的・論理的思考の獲得獲得

□発達理論から見た児童期の課題

- ・エリクソンの心理社会的発達課題、ピアジェの発達理論発達理論

□思春期の特徴

- ・もともとは生理学的な用語第二次性徴：からだの発育の急激な変化、現在は心理、社会的用語として使われている。
- ・自分自身に目を向ける

□思春期の特徴

①中一ギャップ②対人関係の拡大、ルールの厳守自己理解③高校生という発達期

□アイデンティティの確立と修正⇒どれが本当の自己か

□自己認知の特徴

- ・コンピテンス(有能感)…環境をコントロールするという感情に発展させていく。「やればできるんだ」という感情を獲得していく。
- ・劣等感…幼児期初期より心配を繰り返す
- ・自尊感情…自己を大切に感じる気持ち、ありのままの自己を尊重し受け入れるプロセスでの歪みの想定
- ・自己効力感…行動を起こす前に感じる「出来そう」という気持ち、自己効力感は行動や気分に影響する
- ・自己実現

□発達障害の自己認知の特徴

- ①障害発達による自己認知の歪み・自己認知の発達そのものがゆっくり・一般的価値観と自己
- ②根拠のない自信があるのはなぜ？合・自己効力感の歪みがある・効力予測の歪み・結果予期の歪み
ADHD、ASDで違いあり
- ③二次障害により自己認知の歪み・自信の低下、自己否定、傷つきやすさと承認の願望

□まとめ

- ・発達障害は承認の欲求が人一倍強い
- ・他者の攻撃するか、関わらないかに分かれる
- ・自分を確立しなおすことが大切